



JSPS BONN OFFICE

日本学術振興会ボン研究連絡センター

ニュースレター 2014 年 7 月～9 月 (ぼんぼん時計 No.45)

ピックアップニュース

- ①連邦政府が大学等に対する
長期的な助成を可能とする基
本法改正を決議
- ②連邦教育促進法(BAföG)の
大改革
- ③フンボルトランキングを公表:
海外の研究者が集まる研究
機関

その他のニュース

トピックス イベント報告

- ① DAAD Netzwerk-Konferenz
に参加
- ② 日本語研究者ネットワーク
(JR-Net)連絡会議を開催
- ③ 年次活動報告会 JSPS
Abend を開催

今後のイベント

センター長コラム

センターからのご案内

ピックアップニュース

連邦政府が大学等に対する長期的な助成を可能とする 基本法改正を決議

ドイツ連邦共和国基本法(憲法に相当)改正により、連邦政府が、大学、大学研究所及び研究連合組織を長期的に助成することができるようになる。これまでの制度では、大学以外の研究機関については連邦と州政府が共同で助成することができたが、大学に対しては、テーマ的を限定したもの、または時限プロジェクトしか助成することができなかった。

本法の改正により、今後連邦と州が学術研究において提携する可能性が大幅に拡大されることとなる。

BMBF <http://www.bmbf.de/press/3630.php> (16 Jul. 2014)

連邦教育促進法(BAföG)の大改革

連邦政府は 8 月 20 日、連邦奨学金改正法のための草案を承認した。これにより、連邦奨学金の資金を連邦が長期的に負担することになるとともに、学生への奨学金支給に関する実質的、構造的改善が進められることとなる。これらは、近年の生活費の負担増等、学生の実情に対応したものである。

本改正では、受給者枠を 11 万人分拡大し、奨学金の必要基準額及び所得税控除額が引き上げられ、奨学金の支給額が 7 パーセント増加する。また、子供扶養手当は子供 1 人につき 130 ユーロ、住宅手当は 250 ユーロとなる。これにより、自宅外から通学する学生の場合、月々の最高支給額は約 9.7 パーセント上昇し、現行の 670 ユーロから 735 ユーロへ増額される。さらに、学士課程から修士課程への移行期はこれまで助成されていなかったが、今後は継続的に受給することが可能となる。

BMBF: <http://www.bmbf.de/press/3643.php> (20 Aug. 2014)

フンボルトランキングを公表：海外の研究者が集まる研究機関

フンボルト財団(AvH)は、当財団の助成金によって、過去 5 年間にドイツに滞在した外国人研究者数及び受入れ研究機関を「フンボルトランキング」として公表した。

受入れ研究者数上位 3 機関は、順にベルリン自由大学、ベルリン・フンボルト大学、ミュンヘン大学といずれも大都市圏に位置し、2012 年のフンボルトランキング公表以来変動していない。一方、ゲッティンゲン大学が 2 年前の 9 位から 5 位に順位を上げるなど、小都市の大学が躍進する例も目立った。

フンボルト財団シュヴァルツ会長は本ランキングについて、「海外の研究者は研究機関が大都市圏に位置するか否かで滞在先を選んでいるわけではないことがわかり、ドイツ全体としての科学研究の質が世界的に評価されていることを示している。」と説明した。

AvH: <http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2014-22.html> (11 Aug. 2014)

順位	大学	客員研究員数				合計	荷重係数
		フェロー数		受賞者数			
		女性	男性	女性	男性		
1	ベルリン自由大学	85	157	8	39	289	141,67
2	ベルリン・フンボルト大学	64	160	5	42	271	112,45
3	ミュンヘン大学	71	140	6	44	261	73,11
4	ボン大学	41	104		37	182	63,19
5	ゲッティンゲン大学	27	98	1	22	148	58,5
6	ミュンヘン工科大学	21	96	2	48	167	57,39
7	ハイデルベルク大学	39	105	3	35	182	56,17
8	ベルリン工科大学	18	76	2	23	119	54,84
9	バイロイト大学	4	52	1	13	70	53,44
10	フライブルク大学	24	96		23	143	53,16

<http://www.humboldt-foundation.de/web/humboldt-rankings-2014.html>

その他のニュース

経済協力開発機構(OECD)の教育統計の公表

経済協力開発機構(OECD)による教育統計“Education at a Glance”が 9 月 9 日、ドイツ常設文部大臣会議(KMK)、連邦教育研究省(BMBF)及び経済協力開発機構(OECD)により共同で発表された。統計によれば、ドイツの教育システムは安定性と効率のよさで際立っており、特に 3 歳、4 歳児の教育参加率はそれぞれ 91%と 96%に上り、ドイツは国際平均を上回っている。またドイツでは、成年の 86%が後期中等教育の卒業資格を持っており、OECD の平均 75%と比較して高い教育レベルを示している。

BMBF: <http://www.bmbf.de/press/3652.php> (9 Sep. 2014)

また、ドイツ大学長会議(HRK)ヒップラー会長は、経済協力開発機構(OECD)教育統計“Education at a Glance”公表の機会に合わせて、教育の促進を継続していく必要があるとして、以下のとおり警鐘を鳴らした。

(1) ドイツにおける学生一人当たりの支出額は、OECD 諸国の平均 9,600ドルを上回る 10,200ドルであるが、米国(23,100ドル)、カナダ(17,000ドル)には後れをとっている。

(2) 学生一人当たりの支出額増が、現状の諸問題を覆い隠すものとなってはならない。

HRK: <http://www.hrk.de/press/press-releases/press-release/meldung/hrk-president-on-the-new-oecd-education-figures-germany-cannot-ease-up-3550/> (10 Sep. 2014)

ドイツは世界に門戸を開放している:学生及び研究者の国際的流動性

ドイツの大学に在学する外国人学生数は、過去最高を記録した。さらに、大学を卒業してからも、2人に1人はドイツに留まっている。特にアメリカ合衆国からの研究者にとって、ドイツは、非英語圏の中で最も多くが訪れる国となっている。一方、2011年度に留学したドイツ人学生は約13万4千人に上った。ドイツの学生の約3人に1人が在学中に勉強目的で海外に滞在したということになる。ドイツ政府とドイツ学術交流会(DAAD)は、2020年までにドイツ人の大学卒業生の2人に1人が在学中に外国滞在経験をすることを目標に掲げている。

詳細は、連邦教育研究省(BMBF)がドイツ学術交流会(DAAD)及びドイツ大学・学術研究センター(DZHW)と共同で発表した、「世界に開かれた学術2014」<http://www.bmbf.de/de/15945.php>で報告されている。

BMBF: <http://www.bmbf.de/press/3629.php> (15 Jul. 2014)

ドイツで働く外国人研究者の増加:外国人研究者はドイツの利益

ドイツ連邦統計局によると、ドイツの大学で働く外国人研究者数が増加している。その数は、前年から2,724人増の38,015人に上り、ドイツにおける外国人の割合は、全ての研究者及び芸術に従事する教員の10.3パーセントを占めている。また、外国人教授の数も2,777人から2,883人に上昇し、その割合は全体の6.4パーセントに上っている

DAAD: <https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/31305-auslaendische-wissenschaftler-und-wissenschaftlerinnen-sind-ein-gewinn-fuer-deutschland/> (17 Sep. 2014)

連邦教育研究省(BMBF)が人文科学と社会科学を強化

連邦教育研究省(BMBF)は「人文科学、社会科学のための助成プログラム」(2012-2017年)により、人文・社会科学分野を直接かつ持続的に支援している。現代社会において、人文・社会科学分野と科学技術・自然科学分野の協同はますます重要となっている。本プログラムは、人文科学、社会科学の国際化の促進、これらの研究領域での構造の改善及び若手研究者のキャリア支援を目的とするもので、2014年に7,200万ユーロの予算を投入する予定である。

なお、BMBFは、現代社会において重要なテーマである市民の安全、人口統計上の変遷、持続的な発展、教育問題、エネルギー転換といった領域を助成することにより支援している。2013年以降、ドイツのエネルギー転換の実現化に携わっている33の共同研究に対して、約3,000万ユーロの助成を行っている。

BMBF: <http://www.bmbf.de/press/3648.php> (1 Sep. 2014)

連邦政府の新ハイテク戦略:アイデアからの素早い技術革新を目指す

連邦内閣は9月3日、新ハイテク戦略(HTS)を承認した。HTSは、ドイツの経済成長と経済的豊かさ、学術知識の応用の促進強化を目的としたもので、2014年に110億ユーロの予算を投入する予定である。現政権はさらに30億ユーロの追加予算を組んでおり、未来のための研究への投資額は引き続き上昇する傾向にある。

新ハイテク戦略(HTS)は、未来社会、経済成長及び経済的豊かさにとって特に重要な研究テーマに重点をおいている。

BMBF: <http://www.bmbf.de/press/3650.php> (3 Sep. 2014)

トピックス イベント報告

DAAD Netzwerk-Konferenzに参加

日時: 2014年7月3日(木), 4日(金)

場所: DAAD (ボン市)

DAAD(ドイツ学術交流会)において、第7回「Network-Konferenz」が開催され、JSPS ボンセンターもブースを出し、Schulze 職員、前小屋国際協力員が参加した。DAAD は世界中に在外事務所、インフォメーションセンター合わせて70の拠点を有しており、今回、DAAD 職員、大学国際交流担当者などが多数集まり、国際交流の促進のための情報提供、活発な意見交換が行われた。

日本からは JSPS のほか、ボン市内に事務所を設置している早稲田大学及び筑波大学が参加した。

ブースで受ける質問はフェローシップから共同研究、日本の大学の特徴など多岐にわたり、関心の深さをうかがうことができた。

ある DAAD の担当者にその特徴についてお話を伺ったところ、DAAD は、国・地域毎に担当が分かれており、予算自体は連邦の公金を財源基盤として運営されているものの、大学との距離が非常に近く、そのことで自生的で強固なネットワークを築いているとのこと、国際交流の在り方として参考になるものと思われた。ブースのほか、合間にコーヒースタンドや軽食をはさみ10カ国の DAAD 担当者が別室で講演を行い、多数の来場者により会議は盛り上がりを見せた。



DAAD イベント会場



ボンセンターブースでの情報提供

日本語研究者ネットワーク(JR-Net)連絡会議を開催

日時: 2014年9月18日(木)

場所: ホテルブリistol (ボン市)

ドイツに滞在している研究者にとって、日本語による情報交換や人脈作りの場は大変貴重なものとなっている。ボン研究連絡センターでは、今回初となる「日本語研究者ネットワーク JR-Net 連絡会議」として、すでに自主的に活動している各ネットワーク代表者、ドイツの大学の日本人教授と JSPS 関係者による会議を開催した。現在求められているネットワークの在り方や、実際の運営上の課題等について意見交換を行った。

今後、センターの HP において各ネットワークの紹介を行い、参加登録のサポートを行うことにより、研究者ネットワークの構築を支援していく予定である。



ネットワーク代表者



ドイツの教授の方々と JSPS 関係者

年次活動報告会 JSPS Abend を開催

日時：2014 年 9 月 18 日(木)

場所：ホテルブリストル（ボン市）

JSPS Abend は例年、ボン研究連絡センターの主催により、毎年秋にドイツの学術振興機関、大学等の長をはじめとする関係者を招待し、日本学術振興会ならびにボンセンターの活動報告を行うとともに、更なる交流・協力の輪を拓けることを目的として開催している。東京本部より、渡邊淳平理事が出席し、研究協力第一課の田尾若菜国際協力員及びボン研究連絡センタースタッフ全員の参加のもと行われた。

まず、渡邊理事の開催挨拶に始まり、ボン大学長ユルゲン・フォーマン氏及び在ドイツ日本国大使館次席公使宮下孝之氏による祝辞、ピアノの演奏をはさみ、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団エンノ・アオフデアハイデ事務局長の乾杯の挨拶を経て夕食会へと進行した。

夕食後に、2013 年ジーボルト賞を受賞した、東京大学大学院総合文化研究科准教授石原あえか氏より、「自然の多様性を一幅の絵で表現する試み」と題し、ゲーテとその同時代人であるフンボルトやジーボルトを登場人物として、ゲーテ文学と自然研究を読み解くという内容で講演がなされた。

その後、前ボン研究連絡センター長の田中靖郎氏に対し、JSPS への長年の功績を讃え、JSPS 名誉フェローの称号授与式が行われた。

田中氏の受賞理由は、1995 年から 2008 年のセンター長在職期間中、日独の学術交流の枠組み形成の強化に主導的な役割を果たしたことや、同窓会組織の設立と運営を支援するという本会の初めての試みの際に、元本会フェローの組織的ネットワークの形成に尽力し、本会の国際交流の新たな展開を促したことなどが挙げられる。

式は、最初に渡邊理事から田中氏の業績説明があり、その後、楯の授与が行われ、続いて田中氏より感謝の言葉をいただいた。

最後に、小平ボン研究連絡センター長から DAAD の次期東京事務所長に就任予定のウルスラ・トイカ氏に花束を贈呈し、盛況のうちに閉会した。



石原あえか氏講演



田中靖郎氏(左)と渡邊淳平理事(右)



ピアノとサクソス演奏



小平桂一センター長(左)とウルスラ・トイカ氏(右)

今後のイベント

11月28日(金) 渡日プログラム説明会 "Forschung und Studium in Japan" (ウィーン)

11月28日(金)～29日(土) 会員による会員の招待 (ウィーン)

11月29日(土) 第2回ジュニア・フォーラム (ウィーン)

翌1月14日(水)～16日(金) 第11回日独学術コロキウム(ゲッティンゲン)

センター長コラム

珍しくハワイからの訪問客があった。ミュンヘンでの会議に出席した国立天文台ハワイ観測所の林左絵子先生で、忙しい会議以外に他所に立ち寄れたのは始めてとのこと。その林先生にドイツの街の印象を訊いたら「急がない文化」を感じたと言われた。

列車が遅れても辛抱強く待つ。事故調べには時間をかける。古い街並みの補修はコツコツと丁寧にやる。至る所工事中だ。日常生活では困ることも多い。しかし、時間をかけてもキチンとする文化は、ゆとりと積み上げの文化とも言える。多少良い加減でも手早くするのは、それはそれなりに良いところもあり、「追い付け追い越せ文化」か、常に新しいものにとって代わろうとする「循環的文化」とでも呼ぶべきか。

「無駄を厭わない文化」「待つことを厭わない文化」とも林さんは言っていた。人を育てる、土壌を培う、いずれも、先が保証されなくとも、我慢強く時間を掛けてやるべき仕事だ。ドイツの学術(政策)には、まだそうした文化を感じる。学問をする学者と、研究を専らにする研究者がいる。学問をするには、手間をかけて、無駄を厭わないことが大切だ。研究は急いで成果を出す必要に迫られることが多い。「学者」は一種の人格表示で、「研究者」は職種表示なのかも知れない。

最近では学者が少なくなって、研究者が多くなった。「社会の要請」が学者よりも研究者を優先するからだ。しかし、学問の土壌を肥やすことを疎かにし、人を育てることを蔑ろにしては、学者は勿論、優秀な研究者の数も先細りするだろう。近視眼的な「効率化」「重点化」に走り過ぎては、先が思いやられる。

(小平 桂一)

センターからのご案内

日本語研究者ネットワーク(JR-Net)の紹介

当センターHPでは、ドイツ語圏で自主的に立ち上げ運用されている日本語研究者ネットワークを紹介しています。詳細はこちらをご参照ください。<http://www.jsps-bonn.de/nihongo/jsps-ni-tsuite/>

当センター職員交替のお知らせ

大川晴美副センター長が任期満了により2014年7月末に帰国し、8月1日から東京工業大学国際部留学生交流課にて勤務を開始しました。大川さんは2012年8月1日から2年間、副センター長として勤務し、本活動報告の執筆も担当していただきました。後任として、名古屋大学から西崎が2014年8月1日付けで副センター長に着任し、本号から本活動報告の執筆も担当します。



ライン川流域

ボンからライン川を沿って南下すると、そこには見事な景観が広がっています。川の両岸には中世の面影を色濃く残す町が点在し、驚くほどの急斜面に作られたワイン畑と、数々の古城が旅行者の目を楽しませてくれます。

また同時にライン川航行の難所でもあります。クルーズ船、タンカー、対岸フェリー、数多くの船が行き交う中、それぞれの高い技術がこの世界遺産航路の安全を維持しています。(中沢国際協力員)

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office
Wissenschaftszentrum
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn(事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn(郵便物用)
Tel. +49(0)228-375050
Fax +49(0)228-957777
www.jsps-bonn.de